

一関文化賞表彰式典挙行 文化・芸術の振興に貢献の活動を顕彰

式 辞

NPO法人一関文化会議所 理事長 内田 正好



式辞を述べる内田理事長

皆様、本日は御多用中にも拘らずNPO法人一関文化会議所令和3年度「一関文化賞」の表彰式に、一関市長佐藤善仁様を始め御来賓の方々の御臨席を賜わり、誠に有難うございます。本来であればこの季節は、芸術文化やスポーツの秋ということで様々な行事や大会などが実施されます。

ところが今年度もコロナ禍の不安が続き、緊急事態宣言が解除されたとはいえ、まだまだ予断を許さない状況にあります。本日もいろいろと対策を講じ、皆様の御理解と御協力を頂きながら万全を期した上で表彰式を挙行させていただきます。

皆様、今年度の受賞者の方々を御覧下さい。コロナ禍の憂鬱を忘れさせて下さるような素晴らしい御活躍と御功績に輝く二団体とお一方様で、当地域の発展に大きく貢献されていらっしゃいます。

まず生活文化部門では磐井清水若水送り実行委員会様、地域文化部門では岩手県南宮城県北神楽大会実行

委員会様、そして芸術文化部門では千葉万美子様、以上の方々でございます。それぞれの輝かしい活動歴や御功績に関しましては、この後担当の只野奨励委員長から詳しく御紹介申し上げます。

お三方には今回を契機にさらに充実した活動を継続され、一関の子ども達から若い世代そして高齢の方々に至るまで夢と希望を与えられ、潤いに満ちた豊かな文化や芸術推奨のために貢献されることを御期待申し上げます。私ども文化会議所も本来の理念に則り、これからも尚一層精進して参る所存ですので、皆様の変わらぬ御支援と御理解をお願い申し上げます。

結びに、例年であれば厳粛な式典に続きまして「祝賀会」の席を設け、和やかに楽しく御歓談を戴くところですが、本日は大変申し訳ございませんが時節柄自粛させていただきますので御了承下さい。

それではお三方の本日の受賞に対しまして改めてお祝い申し上げ、式辞と致します。本日は誠にありがとうございました。



祝辞を述べる佐藤一関市長

令和3年度(第31回)一関文化賞

生活文化部門 磐井清水若水送り実行委員会
地域文化部門 岩手県南宮城県北神楽大会実行委員会
芸術文化部門 千葉万美子氏

奨励委員会 委員長 只野弘三

第31回となる令和3年度一関文化賞の表彰式は、11月9日、一関文化センター中ホールを会場に執り行い、当地域において文化・芸術の振興に貢献された3者を表彰し、その功績を讃えました。

式では、内田理事長から受賞者に表彰状とトロフィーが手渡され、また、受賞者の皆さんからは、感謝と今後の活動の決意の言葉を頂くとともに、それぞれの活動が映像やパフォーマンスにより発表されました。

今年度の受賞者の方々をご紹介します。



左から、磐井清水若水送り実行委員会 安東会長、岩手県南宮城県北神楽大会実行委員会 阿部実行委員長、千葉万美子氏

【受賞者の紹介】

一関文化賞「生活文化部門」

磐井清水若水送り実行委員会

磐井清水若水送りは、江戸時代中期の相原友直著書「平泉雑記」において「岩井の清水は岩井郡東山松川村にあり、郷説に秀衡の若水に汲み用いたりしと言える石泉なり。平泉より東南方にて、奥道二十余里にあり、泉の傍に民家あり、其の宅を岩井囲地と号す。愚(著者)案ずるに、岩井は祝に通じ、松川の松の千年を契る縁を取りて若水に汲み用いたるも宣なるかな。俗説に殃災あらんときは水色に変わることもあり」と記述されています。

藤原秀衡公の御説により、その年の邪気を祓うべく、東山町松川に湧水する磐井清水を元旦早朝に汲み藤原氏の佛前にお供えしたと伝えられる故事です。

1993年のNHK大河ドラマ「炎立つ」の放映をきっかけに、この故事を現代に生かし後世に伝えるべく同年より実行委員会を組織して若水の中尊寺に進上しています。

毎年1月1日早朝、地域の小学生から高齢者まで、さらには地域外の賛同者を含めた百十数名の行列が厳しい寒さの中、約20キロメートルの道程を徒歩で運び、若水桶を一度も地面に置くことなく中尊寺に送り届ける行事となります。

足掛け三十年になる地元主体の事業実施への地道な取り組みは、自分たちの地域資源を自ら発掘し、守り、保全し、後世に伝えるという自治意識や地域住民の連帯感・一体感を醸成しています。

さらに近年は、多様で特色ある平泉文化を広く情報発信する催しとしての評価も高まっています。

磐井清水若水送り実行委員会のこの永続的取り組みは、地域の生活文化の向上・発展に貢献は高く、その功績は多大なものがあります。



表彰状・記念品の授与



若水を汲む様子

岩手県南宮城県北神楽大会実行委員会

岩手県南宮城県北神楽大会は、1971年五串神楽の神楽衆であった佐藤貞美氏が、温泉神社（巖美町字滝ノ上）の春季例祭（八十八夜祭）に、近郷の神楽団体に呼びかけ奉納神楽を催したことを起源としています。

奉納神楽は大盛会で開催は継続されますが第3回目の開催の後、呼掛け人である貞美氏が急逝され突然存続の危機を迎えるに至ります。しかし、神楽伝承に燃える地元住民の熱意により素早く区長、神楽人、神楽愛好者により実行委員会を組織して大会が継続されました。

現在は、岩手県南及び宮城県北に古くから伝承されてきた「南部神楽」の各団体の参加交流をはかり、地域住民の理解を得て、後継者の育成と地域文化の発展向上に寄与することを目的として大会を開催しています。

本神楽大会は、一関地方で行われる唯一の競技大会でもあり、毎年10を超す団体が参加する中で、「声」「舞」「太鼓」「チームワーク」の総合点により順位及び表彰団体を決定する団体の部と、「太鼓」「翁」「荒型」「女形」「若人」の各部門で優秀賞を決定する個人の部とで審査が行われます。

半世紀にわたる取り組みは、途切れていた神楽団体の活動再開、新たな団体の結成等々、巖美地区における活発な民俗芸能活動を醸し出す土壌となっています。

さらには、競技大会とも言える本大会は、巖美地区に限らず一関地方及び宮城県北の各神楽団体の活動の目標にもなっており、一関地方の伝統芸能・文化活動の保存・継承や、地域活性化に大いに貢献し、その功績は多大なものがあります。

The 49th South Iwate North Miyagi

KAGURA CONTEST



-----East Japan Great Earthquake Disaster Reconstruction Prayer-----



The 48th Contest First Prize Shiroikuno Kagura Preservation Party (Miyagi Pref. Kurihara City Tsukidate) 「From the last scene of Kawasaburosukeyasu」

神楽大会英語版パンフレットの表紙（一部）

千葉 万美子氏

千葉万美子氏は、富山県生まれ、青山学院大学文学部英米文学科を卒業。二児の母親として育児や子育てに奮闘しながら、1989年小説「巻毛の獅子」で岩手日報「北の文学」優秀作賞を受賞。1997年随筆「弱法師」で岩手日報文学賞随筆賞最優秀賞を受賞。その後エッセイストとして、岩手日報コラム「交差点」の執筆、同新聞の文学賞随筆賞の選考委員を長く務めました。

現在は、エッセイストとして活動のほか、能楽喜多流舞教士・謡教士、能楽愛好団体一関喜櫻会の会長等多方面で活躍しています。

一関地方における多様な芸術文化活動の中で、千葉氏の子育てと重なる平成の時代に新しいジャンルを確立し、華を咲かせた活動があります。

一関地方ゆかりの文学者の講演等により、文学が育まれてきた歴史、風土等を感じる場を提供し、市民に「文学をより身近なもの」とする機会を創出してきた「いちのせき文学の蔵」の取り組みです。

千葉氏は、1989年の「文学の蔵設立委員会」時からこの活動に参加し、長い期間幹事として文学の蔵の活動の華々しさを基礎から支えてきました。

また、この活動と並行して、小・中・高のPTA活動にも積極的に参加していますが、そこでは広報誌発行に係る企画・内容で県内外コンクールにおいて高評価を受け、一関市全体のより活発なPTA活動に寄与しています。

さらには、2021年出版の随筆集『わたしたちはみな弱法師である』は、能楽や子育て等を通じて今後の女性のライフスタイルのあり様を視座する随筆ともいえます。

千葉氏のこうした取り組みは、地域社会の芸術文化活動に女性のより積極的参画を促すとともに、文学、文化的貢献も高く、その功績は多大なものがあります。



仕舞「羽衣」を披露する千葉万美子氏
地謡は 一関喜櫻会の皆さん

ふるさと学習院に延べ128名が受講

事業委員会 委員長 畠山篤雄

本年度のふるさと学習院は、平泉の世界文化遺産が登録10周年を迎え、また、「奥の細道サミットin平泉・一関」の開催が予定されていたことから、「平泉と奥の細道」をテーマに実施しました。

今回の講座では、旅の主なる目的地として芭蕉が訪れた平泉及びこの地方の俳諧文化への影響といった視点で新たな気づきがあった3回の講座でした。

松尾芭蕉の足跡を訪ねる山形への現地探訪は新型コロナウイルス感染防止のため実施できませんでしたが、次年度以降に移動研修が開催できることを願っています。



第1回講師 千葉信胤氏の講演



第2回講師 野尻かおる氏の講演

ふるさと学習院

回	開催日	内 容	講 師	受講者数
1	6月16日	開講式、 講座「おくの細道の平泉」	平泉文化遺産センター 参与 千葉 信胤氏	46人
2	7月14日	講座「奥の細道矢立初めの地「千住」と松尾芭蕉」	荒川区立荒川ふるさと文化館 上級総括学芸員 野尻 かおる氏	46人
3	9月17日に予定していた現地探訪は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。			
4	10月13日	講座「磐井の芭蕉句碑と俳諧師」	一関市博物館 学芸員 鈴木 雄己氏	36人

令和3年度 一関文化会議所 子どもスペシャル

春休み親と子のコンサート

音楽の絵本

本格的なクラシックから童謡やオリジナル曲まで、動物たちが奏でる多彩な音楽の世界をお楽しみ下さい。

- ▶ 令和4年3月26日(土) 開演 午後2時
- ▶ 一関文化センター 大ホール
- ▶ 全席指定 (前後左右を開けた座席配置となります)
- ▶ 大人 1,200円 (当日1,500円)
- ▶ 子ども(3歳から中学生) 600円 (当日 700円)
- ▶ 3歳未満は保護者1名につき1名まで膝上での鑑賞 無料(着席鑑賞は有料)
- ▶ チケットは文化センター、さとう屋楽器店、小原書店、コンビニなどでお求めいただけます。



令和3年度の事業を中止

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、東大生出前科学授業及び研修・視察事業は中止しました。

事務局